

第7回（2016年度）助成研究成果表彰 受賞者

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も11名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、5月26日開催の第22回通常理事会において3名の方の受賞が決定いたしました。今回理事長賞には若手助成研究者からの受賞となります。

なお、表彰式・受賞記念講演会は、別途開催する予定です。

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	大平 慎一	所属	熊本大学大学院 自然科学研究科・准教授
助成研究期間	2年間 : 2012年11月～2014年10月		
研究テーマ	重金属イオンのインライン濃縮法とその応用による浮遊状粒子物質中の重金属化合物測定手法の開発		
研究成果	氏は電界下における溶存イオンの泳動と膜透過を利用したイオン抽出デバイスを開発し、重金属イオンを迅速に抽出液に取り出すという前処理技術を確認した。さらに、このイオン抽出デバイスを用いたインライン濃縮により、重金属を酸化状態別に高感度で分析することを可能とした。浮遊粒子状物質中の重金属分析への応用にも展開しており、高感度の重金属類分析技術の研究として評価した。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	三宅 祐一	所属	静岡県立大学 食品栄養科学部・助教
助成研究期間	2年間 : 2013年11月～2015年10月		
研究テーマ	臭素系難燃剤 HBCD のリスク低減のための焼却技術開発と燃焼副生成物質の網羅的把握		
研究成果	氏は難分解性化学物質である臭素系難燃剤のヘキサブROMシクロドデカン(HBCD)の分解技術として、ハロゲン化 PAH の生成を抑制した焼却処理条件を明らかにした。HBCD の分解処理として学術面のみならず実用性のある技術開発として評価した。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	奥田 知明	所属	慶應義塾大学 理工学部・准教授
助成研究期間	2年間 : 2013年11月～2015年10月		
研究テーマ	生体有害性評価のためのPM2.5の包括的物化学特性の解明		
研究成果	氏はインパクターとサイクロンの組み合わせによるPM 2.5の主要部分を高流量で採取するサンプラーを開発している。簡便にかつ粉体状態でPM2.5の主要部分を捕集する新しい分析装置であり環境管理技術向上に貢献するものとして評価した。一方、生体有害性評価においては、本サンプラーで捕集できない0.18μm以下の粒子の特性も重要とされており、さらなる研究の進展に期待する。		

以上